

# クリエイトひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイトひがしね

999-3711 山形県東根市中央1-5-1  
タントクルセンター内

TEL 0237-43-0732  
www.higashine.org



## クリスマスコンサート 音楽のおくりも

12月8日(土) 打楽器ユニットのアンサンブル・レネットを大阪からお招きしてクリスマスコンサートを開催しました。事業収益の還元事業として取り組んだものです。

## 「東根親子劇場」発足のころ

理事 村田民雄

一昨年12月、東根親子劇場の例会に3才になった孫をつれて参加しました。発足以来通算123回になるこの例会が孫にとっては初めてのそして最後の例会でした。

東根親子劇場が発足したのは昭和50年、いまから37年も前のこととなります。「子どもに生の舞台を」、「舞台芸術を通して子育てを」と福岡市から始まった親子劇場運動が全国に広まり、山形県では米沢から13号線沿いにのきなみ設立され、小学校区単位に設立された福岡市は都市部のモデルとされ、全市につくられた山形県は全国から注目され農村部のモデルとされました。

東根での設立のきっかけは人形劇団プーク「12の月のたき火」の公演でした。温泉の厚生会館を満員にし、「お子様ランチ」と思っていた付き添いの親がまず感動し、そのショックが力になり会員制の劇場をつくるきっかけになったのでした。

発足時の会員は400名を超え、当時の那須市長にも会員として協力していただき、「地域ぐるみ

の子育てを」を合言葉に各地区・職場単位の班が月400円の会費を集金し、コンサートや人形劇、舞台劇、親子映画会、子どもまつりなどを含め年間6回の例会を開催することができました。あるコンサートでおばあさんに背負われた幼児が、リズムにあわせて背中で踊りだした光景は、音楽の持つ力を目の当たりに見て忘れることができず、今でも活動の源となっているのです。

今私たちが運営を受託しているタントクルセンターは、子育て支援、ファミリーサポート、遊び場の機能をもつ施設として市内外からも高く評価されています。施設のユニークさに加え、それを生かし切っている私たちスタッフの力量については異論のないところでしょう。だからこそ思うのは、あの三十数年前、「子育てに文化の力を」とそそいだ情熱をこのタントクルセンターで再現出来たらさらなる魅力が加わり、名実ともに「子どもの殿堂」になるのではということです。夢に終わらせたくない初夢です。

# 2012 生涯学習フェスティバル

11月11日（日）「生涯学習フェスティバル2012」がタントクルセンターを会場に開催されました。クリエイトひがしねでは今年も多彩な企画で参加しました。その模様をレポートしました。



タントクルセンターに遊びに来る元気な子どもグループのステージ発表です。ふれあいプラザで10時から2時間開催されました。出演者はドリームスターズ8、なかよしふたりぐみ、MR S 48、東北文教大学コーラス部21名の皆さん、そしてかわいい三人娘から2曲披露していただき、子どもたちのかわいい歌とおどりにおもわず笑顔になったステージでした。また、大塚製薬の販売促進協賛もありお客さんもたくさんの商品をいただき、ステージと観客席が一体となったとてもにぎやかでみんなが元気になったステージ発表でした。（深瀬豊春）

「あ～楽しかった！来年もある？またしたい！」ふろしきマーケットが終了した直後の子どもの声です。出店の申し込みもあつという間に定員に達し、キャンセル待ちもでるほどの人気となりました。当日も開店前に並んで待つ方もおり、人が途切れることなく多くの方でにぎわいました。お店を出した子どもたちの目はキラキラと輝き、はじめ恥ずかしがっていた子ども後半は大きな声をだして、汗をかきながらお客さんに接していました。リユースを通してたくさんの人と人がつながったふろしきマーケットでした。（奥山美和）



今年のけやきホールでは午前中は「こどもシアター」を開放し、子どもたちに大人気のアニメ映画を2つ上映しました。特別につくった入場券と映画館のような音響や照明、子どもたちはすっかり映画に入り込んでいました。午後からは東根市のイメージキャラクター「タントくん」の「さがせシリーズ」を開催しました。正解した人はシールがもらえるとあって、子どもたちは、夢中でいろいろ変装したタントくんの絵を探していました。最後は「東北文教大コーラス部」のみなさんの合唱を鑑賞し、楽しい一日が終わりました。（本間 義章）

## フェスティバルに参加して

楽楽クラブ 菅野 ちづ子

私達は「楽楽クラブ」という活動をしています。この活動はクリエイトひがしねの主な目的である子育て支援を側面から支え、家族の元気、活力、生きがいをつくり、昔遊びや地域力を高めるための自主活動です。自分たちも楽しみ明るくいきいきと過ごすために、やりたいことを話し合い、情報交換しながら一年間の計画を立てます。会員のアイデアや意欲を引き出しながら、しっかりと活動するために、

発表の場のひとつとしてフェスティバルに3年続けて出演させていただきました。この出演が一般の方の目にとまり、出演要請の問い合わせがあったことも市民への認知と広がりが感じられ嬉しいことでした。今、来年度の活動計画を立てています。花見や笹巻作り、漬物作り、歌、手話、踊りなどジャンルは多岐にわたります。来年度も出演を楽しみに活動を続けたいと思います。

## 自主事業

# まっちゃみるく講座

自分たちで作ったお茶碗でお茶を飲もうという全2回講座です。1回目は9月30日、猪野沢橋の方を講師に招き、抹茶茶碗作りを行いました。参加者は9組でした。親子でそれぞれ楽しく茶碗を作りました。焼きあがるのがみんな楽しみで、焼きあがった茶碗を早速家でも使ってくれているようです。次回は1月12日、今度は作った茶碗でお抹茶を頂く予定です。(石山千晶)



## 組織強化事業

# 秋田・横手研修



10月10日、横手市の交流センターわいわいぷらざを視察研修しました。この施設は2011年4月に完成した子育て支援や市民活動、健康づくりなどの機能をもつ多機能複合施設で、タントクルセンターを参考に設計したということでした。印象的だったのは、子育てに関わる設備は、洗面所、便器、テーブルなどすべて子どものサイズにあわせてあること、秋田大学のサテライト機能やフィットネス設備もあり、市民が気軽に利用出来る配慮が各所に感じられたことでした。(村田民雄)

# オリジナル鬼あそび

昨年6月から、けやきホールスタッフ6人(深瀬・榎・後藤・佐々木・松田・結城)で、「けやきホールだからこそできるオリジナル鬼あそびの提案」という研究にとりくんできました。けやきホールで遊ぶ親子・子ども達への聞き取りや一緒に遊んだりと何度も試行錯誤を重ね、6つのけやきホールオリジナル鬼あそびを提案しました。歓声を上げ汗だくになりながら鬼ごっこで遊ぶ姿を見るたびに研究をやりとげた充実感がわいてきます。けやきホールに鬼ごっこをしに来ませんか。空間と仲間が待っています。(結城栄子)



## 平成二十四年度 やまがた食育・地産地消推進活動 優秀賞を受賞しました

このたび「平成24年度やまがた食育・地産地消推進活動表彰」で優秀賞を受賞しました。この賞は、優れた食育・地産地消活動に取り組み個人・団体に贈られるものです。

受賞対象になったのは、幼児期から学童期の子どもとその保護者を対象に東根市沼沢地区で実施してきた「米づくり・里山探険隊」の活動です。親子で田植えから草取り、稲刈り、収穫祭の体験をおして、米を食べられることのありがたさや大変さを実感できたこと、また、活動を通して沼沢活進会や老人クラブなど地域の方々と世代間交流を行ってきたことなどが評価されました。

「里山探険隊」はクリエイティブがしねの活動の柱となっており、毎年多くの参加者が「また来年も参加したい」とリピーターが増えています。



なお、沼沢活進会をはじめ沼沢地区の皆様からは年間を通して絶大なご協力を頂いております。

# クリエイティブがしねメンバー紹介 ⑥

## 齋藤千里



総合受付を担当していつの間にか7年になります。窓口で多くのお客様をお迎えし、様々な施設利用に関わりながら日々一喜一憂しています。かわいいお子さんの笑顔とお客様からの「ありがとう」の声にパワーをいただいております。超アナログで羽入弁全開の私ですが、自分の名前がある「千里の道も一歩から」「ちりも積もれば山となる」をモットーとし、喜んでいただける仕事ができたらと思っています。よろしく願いいたします。

## 奥山奥子



クリエイティブがしねには創立当初からお世話になっています。最近の主な活動は楽楽クラブです。回を重ねるごとに新メンバーが加わり、現在30人になりました。生きがい・健康づくりを中心にした内容ですが、最近では、第3日曜日「だがしや楽校」で、企画員と共に昔あそびの担い手として活動しています。地元神町では、婦人会・よさこい華神桜舞の活動で東奔西走。これからも幅広く、そして楽しく活動していきたいです。

## 横尾永孝



自分には理解不能だったNPOの文字が話題になっている時期、設立時から芸術文化部会員として参加させていただきました。大ホールでのタントクル市民映画会での思い出が蘇ります。入場券の売れ行き状況や採算面での心配は神経を圧迫したものです。反面、「おくりびと」では前売り券が飛ぶように売れ、上映回数を2回も追加するうれしい誤算もありました。他市にすむ友人から東根の活動の素晴らしさをよく言われます。その評価を自覚しながらこれからも頑張っていきます。

## 石山千晶



現在、子育て支援センターとファミ・サポを担当しています。誰も知らない土地にお嫁にきて早10年が過ぎました。初めは友達もいなくて不安でしたが、今ではすっかり(?)山形に慣れました。その時感じた不安な気持ちなどを子育て支援の業務に活かせればと思いつきながら仕事をしてきました。私も子育て真っ最中。まだまだだけれど、遊戯室に来るお母さん達の背中をそっとおせるスタッフになれるようがんばっています。

## 事務局の窓

このたび平成25年4月からはじまる「東根市子どもの遊び場」指定管理者として認定されました。現在、5月5日のグランドオープンにむけ、準備を進めているところです。まずはじめに、遊び場の「顔」になるプレイリーダーを公募しています。“プレイリーダー”は子どもの遊びを活性化させ、遊びの重要性を子どもの視点から社会にメッセージしていくという、子どもの遊び場運営には欠かせない担い手です。子どもの遊び相手だけでなく、遊びを通じて子どもと、社会と、真正面から向き合うことが求められるプレイリーダーは、そこに就くひとりひとりがその人なりの息吹を吹き込みつくりあげていく職業なのです。そのプレイリーダーと共に遊び場運営を支えてくださる地域住民の皆さんからも“協力隊”（お世話焼き隊）として参画いただけるよう広く呼びかけていきます。この遊び場が子どもたちだけでなく私たちも地域との関わりがより広がる場となることを期待します。（村山）

## 編集後記

★12月8日のクリスマスコンサートの日に雪が降り、大阪からはるばるやってきたアンサンブル・レネットの皆さんは嬉しさ半分帰りの心配半分というところでした。早すぎる雪はその後も寒波の襲来で全国的に雪を降らせ今年も引き続き厳しい冬を予感させます。  
★年齢と共に1年の感覚的な長さが短くなります。ところで子どもから「1年早かったね」なんて言う言葉を聞いたことがありません。そう、大人と子どもでは時間の感覚が別なんです。大人には日々の繰り返しの通過点にすぎない正月も子どもにとっては成長を確認する一里塚です。「子ども目線」とはそういうことを認識しながら子どもと接することかもしれません。（M）